



地域と連携した森林環境教育の取組について

【島根森林管理署】

【はじめに】

島根森林管理署では、学校による森林環境教育や NPO 等による自主的な森林づくりの活動フィールドとして、国有林の提供等に取り組んでいます。

これまでに6箇所まで協定を締結しており、地域との連携を重視しながら行っている森林教室の一部をご紹介します。

【多様な活動の森「安寿の森」】

安来市の吉田国有林では、森林保全を目的とした美化活動等のフィールドとして、地元「吉田寿会」と協定を結んでいます。当署と吉田寿会が協力して、安来市立南小学校の児童を招いて、30年以上にわたり毎年ふれあい森林教室を開催しています。

森林教室では、記念植樹、椎茸のほだ木づくり、木工教室、紙芝居やクイズなどを行い、森林の働きや木材について興味を持ってもらえるようにしています。



椎茸のほだ木作りの様子



身近な国有林の紹介

【社会貢献の森「連合島根の森」】

雲南市の^{おおしど}大志戸国有林では、連合島根と企業の社会的責任（CSR）活動などを行うことを目的とした協定を結んでいます。

連合島根が約20年にわたり毎年開催する「夏休みこども自然観察会」は、川魚のつかみ取りや森林散策など夏休みのひとときを過ごす企画で、参加者が抽選となることも多い人気のイベントとなっています。

当署は森林教室を担当しており、ネイチャーゲーム、森林散策、紙芝居、木工教室等を行っています。

近年はコロナ禍により開催が危ぶまれることもありましたが、夏休みの子供たちの良い思い出となるように、班分けや会場の分散などの工夫により密を避けるとともに、マスク着用などの対策を徹底し開催しています。



ネイチャーゲームの様子



紙芝居の様子

【遊々の森「まほろばの森」】

島根県美郷町の^{ほどはら}程原国有林において、美郷町立大和中学校が様々な活動や学習活動を行うためのフィールドとして協定を結んでいます。

植付、下刈、除伐、枝打と、先輩から代々受け継いだ森の手入れや、森林の持つ水の浄化機能の実験等を通じて、森が水を蓄えきれいにしていること、木が土砂を固定して下流へ流れにくくしていることを学び、森林が私たちの安全・安心な生活に大きく関わっていることについて理解を深めています。



枝打ち作業の様子



森林の持つ機能について学習

島根森林管理署では、子供たちが森林で遊び、親しみ、体験することで、持続可能な社会の構築に果たす森林・林業の役割や木材利用の意義について理解と関心を高めるための取り組みを、今後とも進めてまいります。

職員のスキルアップを目指して！ ～天然力を活用した森林づくり現地検討会～

【岡山森林管理署、森林技術・支援センター】

7月14日（木）に、古谷^{ふるや}国有林の試験地において、岡山森林管理署と森林技術・支援センターの共催で職員を対象とした現地検討会を開催しました。

今回は「天然力を活用した森林づくり」をテーマとし、岡山森林管理署から15名、森林・技術支援センターから4名、計19名の職員が参加しました。

天然力などを活用した多様な森林への誘導については、国有林においては重要な課題であるとともに、市町村においても森林経営管理制度のもと林業経営に適さない人工林を管理コストの低い針広混交林等へ誘導することとしており、民有林・国有林共通の課題となっています。

当日は、岡山森林管理署長から公益的機能に配慮した多様な森林づくりや管理経営の指針など「森林づくりの基本的な考え方」について講義を行い、森林技術・支援センター所長から「天然生広葉樹を活用した低コストな針広混交林造成技術の開発」に関する技術開発試験の概要を説明しました。



岡山森林管理署長の講義



森林技術・支援センター所長の説明

その後、古谷国有林に移動し、森林の現況を確認しながら意見交換を行いました。当試験地はヒノキ植栽時に天然生広葉樹を積極的に残存し15年程度が経過した林分で、公益的機能の確保に向け除伐等の森林施業が必要な時期となっています。

これらの森林の現況を踏まえつつ、若手職員からベテラン職員至るまで、それぞれの立場からこれらの課題解決に向け自身の森林づくりの考え方について、積極的に意見を述べるなど有意義な現地検討会を開催することが出来ました。



林内での意見交換の様子



林内での意見交換の様子

岡山森林管理署と森林技術・支援センターでは、連携協力し若手職員を含む職員全体のスキルアップを目的に、引き続き現地検討会を開催していく予定です。

白山まるごと体験教室「蛇谷峡谷&蛇谷風景林で見る・遊ぶ・学ぶ」を開催しました。

【石川森林管理署】

7月9日(土)に蛇谷国有林において、白山まるごと体験教室「蛇谷峡谷&蛇谷風景林で見る・遊ぶ・学ぶ」を開催しました。

このイベントは、石川県白山自然保護センター、石川森林管理署、白山自然ガイドボランティア友の会が連携して今回で3回目の実施となります。

当日は曇りがちの天気でしたが気温も高すぎず、絶好の登山日和となり、一般公募で集まった小学生の子どもを含めた家族連れを主に、下は10歳以下、上は70代と合計25名の幅広い年齢の方々が参加しました。

現地では4班に分かれての白山白川郷ホワイトロードの三方岩駐車場から、三方岩までの1.2kmを歩き、道すがら登山道沿いの植物を観察したり、説明したりしました。

案内スタッフからの説明では、ブナの実とクマが山に降りてくる関係性、高山に生えてく



植物の名前を聞く参加者

るニッコウキスゲ、ホワイトロードについて等々の説明を熱心に聞き入っていました。

当職員も案内スタッフを担当し、白山緑の回廊、「日本美しい森」のPR等、林野庁が行っている各種の取組や、業務内容を分かりやすい言葉で説明しました。

石川森林管理署は今後とも関係機関と連携しつつ、このような地域の催しに積極的に協力していくとともに、国民の皆様に森林、林業や木材について興味を持っていただけるよう、各種イベントに取り組んでまいります。

ニッセイ社の森での森林ボランティア活動について

【兵庫森林管理署】

7月2日(土)、朝光山国有林(兵庫県加東市)において、ニッセイ緑の財団が主催する森林ボランティア事業が開催され、多くの日本生命の従業員やそのご家族が参加しました。

例年より早い梅雨明けにより天候には恵まれましたが、猛暑のなかでの作業でしたので、水分補給等の熱中症対策を十



署長による挨拶

分に講じつつ、立竹の除伐や笹の刈り払いを行いました。新型コロナウイルスの影響等により、前回の森林整備の活動から数年が経過しており、その間に造林地内に入り込んだ竹が大きく生長していることに驚かされながらの作業となりました。

参加者には鋸(のこぎり)による除伐作業が初めてという方も多かったのですが、作業にご協力をいただいた

戸出木材の方々や、兵庫森林管理署の職員から安全な作業の指導を受けながら無事作業を終えることが出来ま



作業の様子

した。参加者の方々によって除伐された林内には日光が差し込むようになり、林内環境が大きく改善され



作業後の林内

たことから、今後の造林木の生長が期待されます。

職場体験 in 広島森林管理署

【広島森林管理署】

6月28日(火)～6月30日(木)の3日間、広島市立翠町中学校3年生2名が広島森林管理署で職場体験をしました。

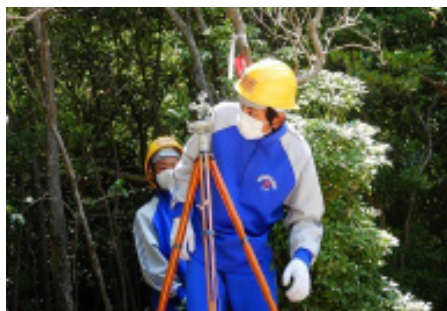
翠町中学校では、地域における様々な職場体験活動を、社会的自立に必要な能力を育成(学習)することを目的として、3年生の総合学習の時間に実施しています。



間伐体験(奥井野山国有林)
受け口よし! 追い口を切る

3日間の職場体験の内容は、森林管理署の概要・治山工事現場の見学、治山施設の点検、伐採予定木の調査、間伐体験、林道整備(刈払・路面排水)、測量実習(コンパス測量)のほか、シカ被害対策の学習や、ドローン操作などでした。連日の暑さにも関わらず、当署職員と一緒に積極的に体験するとともに、各種作業の役割や必要性などについて質問するなど、意欲的に取り組んでいました。

この体験を通して、働くことの意義、自然の大切さを知り、森林・林業に関心を持ち続けてくれることを願っています。



探求測量(高松山国有林)

最後に生徒から職場体験の感想を下記のとおりいただきましたので紹介します。

生徒 Kさん

「はじめてやることばかりで楽しい3日間だった。

(右上段へつづく)

その中でも、間伐する時にカエルの口(受け口)を作るのがとても難しかった」

生徒 Nさん

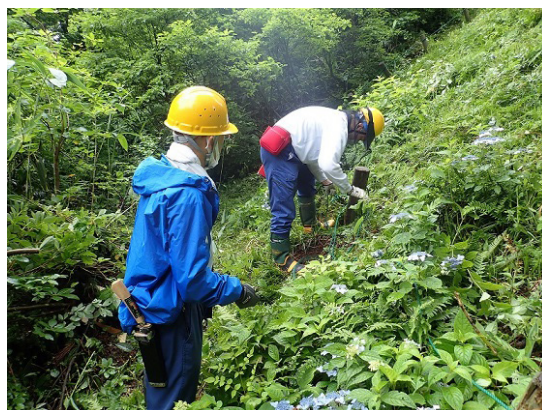
「国有林の範囲はとても広く、森林管理署はダム設計などを行っていて、とても大切な仕事だということがわかった。また、測量実習でコンパスを、指定の位置にあわすのが難しかった」

「桃木峠の大杉」周辺の保全作業を行いました。

【福井森林管理署】

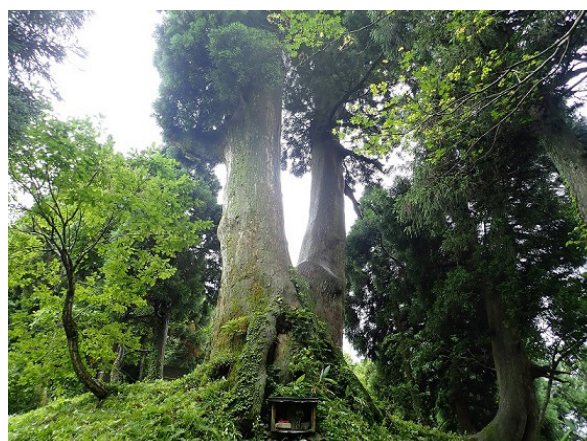
7月10日(日)、福井県大野市にある経ヶ岳^{きょうがた}国有林で「桃木峠の大杉」周辺の歩道刈払い、歩道周辺のロープ柵補修、樹名板清掃を、桃木峠の大杉保全協議会と福井森林管理署が行いました。

当日は小雨でしたが20名程度の参加がありました。



ロープ柵の補修

今後も、「桃木峠の大杉」を保護・保全するための活動を行ってまいります。



巨樹巨木百選の「桃木峠の大杉」

ニュース

「森林環境教育手引書」活用フォーラムへのご参加ありがとうございました。

【箕面ふれあい推進センター】

6月25日(土)、未来の子どもたちに、より良い環境を残していくためのSDGs活動の一環で、森林を身近な



柏原局長挨拶



山下京都教育大学教授の基調講演

ものとして感じてもらう第一歩として、林野庁近畿中国森林管理局と環境省近畿地方環境事務所の協働により、環境教育に関心のある皆様に「見てもらいたい、使ってもらいたい」との想いを込めて『森林環境教育手引書』活用フォーラムを開催いたしました。

会場及びオンラインにより、全国30都道府県から160名を超える皆様に参加いただきました。

限られた時間での開催でしたが、環境教育、森林への熱い想いを感じることができるひとときでした。



執筆をいただいた委員からの各教科の説明



最後まで熱心に参加いただいた皆さん

私たちは、これからも未来の子どもたちに森林を感じてもらえる取組に積極的に取り組んでまいります。

皆様のご参加、本当にありがとうございました。

「古事の森育成協議会」を開催しました。

【奈良森林管理事務所】

奈良森林管理事務所では、国宝・重要文化財等に指定されている神社・仏閣等の修復に必要な大径長尺材を確保するために、地域の育成協議会と協定を締結して、『春日奥山古事の森』と『斑鳩の里法隆寺古事の森』の2箇所を古事の森に設定し、国民参加の森づくりを進めています。

奈良市内において、6月24日(金)、「令和4年度春日奥山古事の森育成協議会」を開催し、全ての関係機関から委員等24名が出席しました。



挨拶する今井会長

会議は、春日大社^{ねぎ}禰宜の今井会長の挨拶で始まり、古事の森の取組内容

やこれまでの活動の歩み等についての紹介がありました。

議事内容については、昨年度の活動報告及び今年度の活動計画案として、コロナ禍により昨年度中止とした興福寺の特別参拝を含めた普及啓発イベントを実施する提案がなされ、承認されるとともに、令和6年度に計画されている間伐の実施方法等について意見交換を行いました。

また、7月12日(火)には、当所において、「令和4年度斑鳩の里法隆寺古事の森育成協議会」を開催し、委員7名を含む13名が出席しました。



挨拶する古谷会長

会議では、法隆寺管長^{ふるや}の古谷会長より、「古事の森は、神社仏閣等の修復

に必要な大径長尺材などを数百年かけて育成する超長期的なこれまでにないもの。関係者が連携して取り組んでいくことが必要。」などの挨拶がありました。

議事では、保育間伐の実施も含めた普及啓発イベントを来年度実施する方向で調整することが確認されました。

お知らせ

令和4年度の新任幹部を紹介

7月1日付けで局次長、和歌山署長の幹部の人事異動がありましたので、紹介します。
 よろしくお願いたします。



- ①所属：次長
- ②氏名：松本寛喜（まつもと ひろき）
- ③前任地・役職：NEXCO 中日本東京支社建設事業部 担当部長
- ④抱負：市町村や地元から「頼りにされ信頼される国有林」となるよう取り組んでまいります。



- ①所属：和歌山森林管理署 署長
- ②氏名：森内 賀久（もりうち よしひさ）
- ③前任地・役職：関東森林管理局・森林整備課長
- ④抱負：職員の皆さんが明るく前向きに仕事ができるように、コミュニケーションと雰囲気大切に、新しい林業の取り組みを通じて地域へ貢献できるよう努めてまいります。

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

8月8日（月）～9月7日（水）の展示は、奈良県十津川村、近畿農政局です。ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○令和4年度森林・林業交流研究発表会を開催します。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



【奈良森林管理事務所】

○第11回「春日奥山古事の森」普及啓発イベントの申し込みについて、今年度は、興福寺の北円堂及び国宝館の説明及び見学等を主な内容として実施する予定です。皆様のご応募をお待ちしております。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/nara/information/220727.html>



【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙(56通目)を発行しました。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/oosugitegami.html>



花草木

【エンジュ】

中国北部を原産とするマメ科エンジュ属の落葉高木です。丈夫で管理に手間がかからないことや木全体に薬効があることから、日本全国に街路樹あるいは公園樹として植栽されています。エンジュという名は、イヌエンジュの古名「エニス（患爾須）」が転訛したものとのことです。

葉は卵形をした長さ2～5センチの小葉が4～7対、羽根状に集まり、枝から互い違いに生じ、表面は深緑色で裏面は白っぽいです。

7～8月にかけて咲く花はクリーム色の蝶形で中央が黄色い。花の一つ一つは1～1.5センチほどと小さいが、枝先にまとまって大きな円錐状に咲くため、遠目からは木の上に煙が立ち上がっているように見えることもあります。

木材は器具、楽器、家具に使われますが、木質は堅硬で、中国では馬車や荷車、造船にも用いられる重要な木材でした。

エンジュの花言葉は、「上品」「慕情」です。



7月に市内で見つけたエンジュです。右下、花が咲き始めました。

我が署のスタッフ

福井森林管理署

大家 亮介 (おおや りょうすけ) (平成30年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループの係員として、経営、森林育成を担当しています。経営業務では主に測定を担当し、国有林の境界を整備する境界検測などを行っています。国有林と民有地との境界には境界標識が設置されていますが、現地の境界標識が不明になった場合、測量成果に基づいて現地に再現する作業を境界検測といいます。

森林育成業務では、間伐等の森林整備事業に関する現地での調査や発注業務に携わっています。福井県では熊やシカによる人工林の皮剥ぎ被害が多く、そういった被害を減らすための対策を森林整備事業で行っています。

【職場の雰囲気は？】

分からないことがあれば、相談しやすい和やかな職場です。また、定時退庁の呼びかけが行われるなど、プライベートを充実させやすい環境です。

【林野庁の魅力は？】

山に行く機会が多いことです。行政区分の採用だからといって事務仕事ばかりというわけではなく、現場に行く機会が多くあり、自然を堪能することができます。



事務所で書類作成中です

森林事務所紹介

尾鷲森林事務所 (三重森林管理署)

地域統括森林官 山下 智弘 (やました ともひろ)

尾鷲森林事務所は、三重県南部の尾鷲市に所在し、尾鷲市、紀北町、大台町にある 12 団地、面積 10,262.09ha の国有林を管理しています。そのうち約半分の面積を占める大杉谷国有林では、一部に原生的な天然林が残っており、これを後世に残して行くために「森林生態系保護地域」が設定されています。レクリエーションの場としても大杉谷登山道、山小屋 (2 軒) があり登山者の人気スポットになっています。山開き前には各関係機関と共に 1 泊 2 日で登山道の整備作業、安全点検を実施しています。七ツ釜滝、堂倉滝などの絶景を楽しみながら奈良県の大台ヶ原に繋がるルートで自然を満喫出来ますので機会があれば是非歩いてみてください。

当事務所では、森林整備、治山、林道などの事業を行っており、特に力を入れているのはニホンジカによる森林被害対策事業です。大杉谷国有林では、シカの個体数の急増により昭和 60 年代以降森林被害が加速し、平成 20 年頃には、林地の裸地化、一部では土壌の流出による崩壊地化が進みました。この対策として、平成 24 年度に「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」が策定され、毎年、学識経験者、地元関係者の意見を聞きながら対策事業を実行しています。対策事業の 1 つ目はシカの個体数管理のために平成 28 年度から行っているシカ捕獲事業です。たいへんな奥地のため、現在のような事業を立ち上げるまでに何年もかかったそうです。2 つ目は未立木地への植栽、防護柵の設置事業です。植栽木は大杉谷で採取した種から育てた様々な種類の地域性苗木を植えています。こちらも最初の植栽には失敗し、複数年にわたり有識者の指導を受けて事業を軌道に乗せました。3 つ目は防護柵の維持管理のための点検業務です。防護柵の効果は高く、柵内の植生の回復は良好ですが、柵外では未だシカの捕食により植生が育たない状態です。シカ対策は永遠のテーマのようにも感じられます。これからも森林の公益的機能が発揮出来るよう、国有林の管理に励んで行きたいと思えます。



千尋一本杉 (森の巨人たち百選)



大杉谷登山道の整備作業



平成 30 年度防護柵、植栽実施箇所

シリーズ『国有林 最前線！』

～樹木採取権スタート！～国産材の安定供給に向けて～

岡山森林管理署

近畿中国森林管理局管内初となる「樹木採取区」が、当署が管理するようごうさん用郷山国有林とひたにやま樋谷山国有林一帯（新見市）に設定され、公募・審査を経て、3月18日、樹木採取権者として（株）戸川木材（新見市）に令和13年3月31日まで樹木を採取する権利を設定し、3月30日には「実施契約」を締結しました。（「森のひろば 令和4年4月号」に記事掲載）

この樹木採取区の対象面積約251haのうち、採取可能な面積約116haが9年間で伐採されることとなりますが、実施契約は、権利存続期間9年のうち令和7年度末までの4年間で期間とするもので、今年度から事業が開始されているところです。

開始初年度となる今年度においては、モザイク状に配置した5カ所の小面積伐区（1.5～2.5ha）、合計10.8haの伐採が始まっています。これから樹木採取区から採取された国有林材が流通し、国産材の安定供給の一助となることや木材の安定的な取引関係を確立する体制の構築が促進され、事業者間の連携が強まることが期待されるところです。

まだ動き出したばかりですが、国産材の安定供給や地域の産業振興に繋がるなど樹木採取制度が機能するよう引き続き取り組んでまいります。



樹木採取区林分の様子（用郷山国有林）



伐採がはじまった採取区の様子（用郷山国有林）



樹木採取区域の表示作業（用郷山国有林）



樹木採取区林分の様子（用郷山国有林）